

明治大学 校友会 秋田県支部会報

第 29 号
R 1. 8. 13

父母会との連携強化

県支部 総会 平成卒の若手も出席

明治大学校友会秋田県支部の2019年度総会が7月6日、秋田市の秋田キャッスルホテルで開かれた。この中で、「在学生の秋田県父母会会員を特別準会員」とする会則の変更を承認し、父母会との連携を強化する方向性が打ち出された。

総会および懇親会には62人の校友らが出席。昨年に続き、平成卒業組の若手の姿が目立った。

最初に就任2年目の鶴田有司支部長（昭和50年・経営卒）があいさつに立ち、「県内には約1800人の校友がいる

が、明治大学の最近の入学志願者は13年連続で10万人を超し、名実ともに人気大学になった」と強調。またスポーツの活躍にも触れ、「今年1月にラグビーが22大会ぶり13度目の優勝を飾り、野球も春季リーグで優勝してくれた。おかげで我々の意気も上がった」と述べた。

来賓として出席した田部井茂・明治大学理事は母校の現状を説明しながら「明治大学は今年、創立138周年を迎える。140周年にはコンパクトで実のある事業を展開したい」とあいさつ。富樫芳勝・明治大学



総会であいさつする鶴田支部長

校友会副会長は「校友会は『明治はひとつ』の掛け声の下に頑張っている。我々OBは母校と共に歩みたい」と力強く語った。

続いて2018年度の会務報告と決算報告、2019年度の事業計画案

と予算案を原案通り承認。代議員に木村友勝（昭和39年・農卒）、大地進（同52年・政経卒）、佐々木章（同55年・商卒）、米屋美生夫（同56年・商卒）の4氏、副支部長を石



夢に向かって
情熱、努力を
元全日本女子バレー代表
齋藤さんが講演

元全日本女子バレーボール代表の齋藤真由美さんが総会後、「夢に向かって」と題して講演を行った。

齋藤さんは、わずか15歳で全日本デビューを果たした。しかし右肩負傷、さらに交通事故で大けがを負うなどして、何度も挫折を経験した。

川聡氏（同58年・法卒）から兼子達弘氏（同57年・農卒）に変更、廣田睦子さん（平成16年・法卒）を新たに副幹事長とする役員人事も承認した。

総会後の懇親会では、恒例の明大クイズ選手権などで大いに盛り上がり、最後は全員で肩を組み明治大学校歌を熱唱した。

それでも33歳まで現役生活を続けられたのは「ダイエーのセリンジャー監督と出会ったため」と説明。この良き指導者からの数々の教えが齋藤さんを支えたという。

例えば欠点をけなすのではなく、「欠点は個性」ととらえ「欠点が見えなくなるまで長所を伸ばす」指導を受けたと振り返りながら、「スポーツに限らず、すべてに通じる考えだ」と力説した。

そして夢に向かって必要なキーワードとして情熱、信頼、努力を挙げ、「夢はあきらめたら終わり。あきらめなければ終わらない」と強調した。

さわやかな語り口の中にも、自らの経験を踏まえた示唆に富む講演内容だった。

総会・懇親会に62人 平成卒業が13人も



田部井理事



富樫校友会副会長



総会に臨む校友

校友の皆様を支えられ、昨年は、豪雨に見舞われた西日本への復興支援、中村順子氏をお迎えしての講演会、神宮会(東京六大学OB会)に対する支援、全国校

友大会やラグビー部激励会への参加支援など、さまざまな活動に取り組んで参りました。特に今年、①準会員でありながら活動に参加できない現役学生の現状を鑑み、支部会則を改め、秋田県父母会会員を校友会特別準会員とし、

活動の連携強化、次世代の校友会組織づくりを模索していきたいと考えています。これに関連して、②県内就職活動に伴う現役学生への旅費等の支援。
③「明大女性会議ラウンドテーブル」の新設。総会・懇親会とは別に、女性だけのホテルでのランチタイムを企画。奮ってご参加下さい。
④元全日本女子バレーボール代表、斎藤真由美氏をお迎えしての講演会の開催。
⑤「会報」第29号の制作。会報の発行には発送費が半分を占めますが、これからも「紙」にこだわっていきます。手に触れることにより温かな絆が結ばれることを期待しています。
⑥そして昨年と同様、全国校友大会への参加支援、県北・県南支部の活動への支援。親しみやすい総会懇親会を目指して参ります。
昨今「男社会」から「おとな社会」のしなやかさをもった社会への対応が求められています。
まずは、理屈なしに「omotenashi」であることから始めることにしましょう。
(秋田県支部幹事長・大坂良宏 昭和52年経営卒)

明治の明日は 女性が決める!

友大会やラグビー部激励会への参加支援など、さまざまな活動に取り組んで参りました。

昭和37年に明治大学を卒業して、早いこと半世紀余りが経過致しました。今日まで明大の校友として母校を顧みると、同窓であればこそ社会への関わりが数々が走馬灯のごとく去来してまいります。
すなわち、学生時代に築かれた同期生との交流、そして同窓生として社会的、職業的なめぐり合い、そうした機会を通じての人間関係の広がり等々、明治大学に在学できたことが私の人生を深めてきたとの思いでいっぱいです。現在でも、毎年行われておりますクラス会、ゼミナール会、部活動を通して先輩後輩の交流

た昭和37年とその責任者として携わったことがあります。当時は市民会館もなく、私の母校の大館鳳鳴高校の講堂を会場として開催されました。その際、2カ月間にも及んだ準備活動を通して数々の

だつた蒔苗昭三郎氏が奮闘されて大成功を収め、全国にその名をとどろかせて秋田県支部の組織化にも大きく貢献されました。
大館北秋明大会でも毎年、会員に呼び掛けて会を招集し



利害超えた心の通い

大館北秋明大会

会長 乳井宏資

など、上京することが楽しみます。
さて大館では、私が学生時代から母校のマンダリンクラブの演奏会が毎年のように行われ、これまで25回にも及んでいます。私自身、学生だっ

社会経験をすることができ、私の人生における人間修養の大きな出来事となりました。
ところで平成20年には明治大学全国校友秋田大会が秋田市で開催されました。大館市扇田出身で当時秋田県支部長

ているところです。ただ近年は参加者も減少傾向で固定化しつつあり、しかも高齢化しつつあります。しかしながら現実には同窓生が地元で活躍しており、また県外などから企業に赴任している同窓生も多いと聞いておりますので、その組織化が大切だと思っております。
校友というのは、利害を超えて心と心が通い合えるものであり、このことを大切にして、秋田県に住む明治大学卒業生が一丸となって前進することを祈願しております。
(昭和37年・政経卒)

活動の連携強化、次世代の校友会組織づくりを模索していきたいと考えています。これに関連して、②県内就職活動に伴う現役学生への旅費等の支援。
③「明大女性会議ラウンドテーブル」の新設。総会・懇親会とは別に、女性だけのホテルでのランチタイムを企画。奮ってご参加下さい。
④元全日本女子バレーボール代表、斎藤真由美氏をお迎えしての講演会の開催。
⑤「会報」第29号の制作。会報の発行には発送費が半分を占めますが、これからも「紙」にこだわっていきます。手に触れることにより温かな絆が結ばれることを期待しています。
⑥そして昨年と同様、全国校友大会への参加支援、県北・県南支部の活動への支援。親しみやすい総会懇親会を目指して参ります。
昨今「男社会」から「おとな社会」のしなやかさをもった社会への対応が求められています。
まずは、理屈なしに「omotenashi」であることから始めることにしましょう。
(秋田県支部幹事長・大坂良宏 昭和52年経営卒)



一段と深まった 校友の絆



収支計算書(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	決算額	差額
I 本部より助成金収入			
1 支部総会開催通知費	165,000	177,217	-12,217
2 支部総会会場費	180,000	200,000	-20,000
3 支部運営助成金	218,000	218,000	0
4 支部公開講演会会場費	0	0	0
5 講演会チラシ等作成費	0	0	0
II 支部会費収入	510,000	510,000	0
III 総会費収入	300,000	243,000	57,000
IV 事業収入	0	0	0
V 寄付金収入	0	0	0
VI 特別寄付金収入	0	0	0
VII 果実収入	1,000	523	477
VIII 広報費	0	0	0
IX 雑収入	70,000	90,000	-20,000
X 基金取崩収入	0	0	0
収入合計	1,444,000	1,438,740	5,260
前年度繰越収支差額	2,955,936	2,955,936	0
合計	4,399,936	4,394,676	5,260
支出の部	予算額	決算額	差額
I 事業費			
1 学生表彰費	0	0	0
2 学生団体助成金	30,000	0	30,000
3 地域支部交流費	200,000	67,790	132,210
4 支部公開講演会費	50,000	68,900	-18,900
5 義援金(西日本豪雨)	0	200,000	-200,000
6 その他事業費	200,000	237,000	-37,000
II 広報費			
1 支部会報発行費	300,000	294,180	5,820
2 広報関係費	50,000	4,027	45,973
III 組織費			
1 地域支部助成金	0	0	0
IV 運営費			
1 会議費			
(1) 支部総会費	780,000	801,769	-21,769
(2) 役員会費	70,000	114,878	-44,878
(3) 監査委員会費	10,000	0	10,000
(4) 委員会費	10,000	0	10,000
(5) 業務費	30,000	46,474	-16,474
2 事務費	50,000	50,000	0
3 慶弔費	50,000	86,040	-36,040
V 積立金	0	510	-510
VI 予備費	0	0	0
支出合計	1,830,000	1,971,568	-141,568
当年度収支差額	-386,000	-532,828	146,828
次年度繰越額	2,569,936	2,423,108	146,828
合計	4,399,936	4,394,676	5,260

収支予算書(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	支出の部	予算額
I 本部より助成金収入		I 事業費	
1 支部総会開催通知費	177,000	1 学生表彰費	0
2 支部総会会場費	200,000	2 学生団体助成金	30,000
3 支部運営助成金	218,000	3 地域支部交流費	200,000
4 支部公開講演会費	0	4 支部公開講演会費	80,000
5 講演会チラシ等作成費	0	5 義援金	0
II 支部会費収入	510,000	6 その他事業費	260,000
III 総会費収入	300,000	II 広報費	
IV 事業収入	0	1 支部会報発行費	300,000
V 寄付金収入	0	2 広報関係費	10,000
VI 果実収入	1,000	III 組織費	
VII 雑収入	70,000	1 地域支部助成金	0
		IV 運営費	
		1 会議費	
		(1) 支部総会費	800,000
		(2) 役員会費	100,000
		(3) 監査委員会費	10,000
		(4) 委員会費	10,000
		(5) 業務費	40,000
		2 事務費	50,000
		3 慶弔費	50,000
		V 積立金	0
		VI 予備費	0
収入合計	1,476,000	支出合計	1,940,000
前年度繰越収支差額	2,423,108	当年度収支差額	-464,000
合計	3,899,108	次年度繰越額	1,959,108
		合計	3,899,108

明大女性会議 ラウンドテーブル

秋田市で初開催へ

9月7日(土)正午から秋田市の秋田キャッスルホテルで、おいしいランチを食べながら、楽しいおしゃべりをしようという試み。お一人、あるいはお子様連れでも大歓迎。ランチ代は1000円(補助あり)。参加申込は廣田(080-1652-0652)まで。

駿台ア・ラ・カルト

(明治大学HPより)

◆明治大学体育会ラグビー部が22年ぶりの大学日本一 明治大学体育会ラグビー部は12月12日、第55回全国大学ラグビーフットボール選手権大会の決勝で、天理大学を22-17で下し優勝。1997年以来、22年ぶり13回目となる大学日本一の座に輝きました。

◆硬式野球部が、第68回全日本大学野球選手権大会で38年ぶりの優勝 明治大学体育会硬式野球部は6月17日、第68回全日本大学選手権大会決勝

季リーグで40回目の優勝 体育会硬式野球部は5月26日、東京六大学野球春季リーグ・法政大学戦に8-7で勝利し、5季ぶり通算40回目の優勝を飾りました。春季リーグでは、2016年以来3年ぶりの優勝となりました。



寄稿・投稿

現在私は体同連ラグビー部MRCの主将として活動しています。体同連ラグビー部は、監督がいいため練習メニューやメンバー、練習試合を組み合わせることを学生主体で行っています。これまで、中学校、高校でも主将を務めていましたが、それらとは監督や部長先生が全てやってくれていたことでした。自分で実際にやることでラグビーに関わることだけでなく、会計の大変さといった事務的な仕事の苦労など裏方の仕事も経験する



自ら考え行動する力養う

本城 玄

ことができました。この環境の中で学生ながらに一生懸命仕事をやることで主体的に動く行動力や、自分の仕事に対する責任感を得ることができました。この経験は体同連ラグビー部ならではの経験であり、この組織に入ってから成長できたものと心から感じています。社会人になった時、自ら考え、行動する力が求められます。そのとき、この組織で学んだことを生かし、行動力と責任感のある行動で明大生の名に恥じない社会人になりたいと思います。

MRCでは1年生と2年生の時に関東リーグを制し、東西対抗でも関西リーグの勝者を倒して2年連続日本一になりました。昨年は残念ながらリーグ戦で2位に終わりましたが、私が主将になった今年は日本一奪還を目指して練習に励んでいます。

えることができるようになりました。これからは世界で起きていることに目を向け、グローバルな視点が必要不可欠であると思います。また講義だけでなく、ゼミ活動でも海外研修を行い東南アジアの企業に実際に訪問し、グローバルゼーションについて身をもって体験することができました。これらも明治大学に入ったからこそ経験できたものと実感しております。今年1年、大学生活の集大成としてラグビー、学業共に悔いの残らないように充実した1年にしたいと思えます。(経営学部4年・体同連ラグビー部MRC主将)

編集後記

校友会秋田県支部の総会では冒頭、全員で校歌を斉唱するのが習わしだ。それも必ず3番まで。「白雲なびく」の1番はもとより、2番も自然と歌えるのだが、3番となると怪しくなる▼その3番の出だしが「霊峰不二」。富士山のことを「不二」と表現した古文献もあり、「二つとない山」を強調するため敢えてそう表記したのだろう。校歌の作曲者をご存じ、山田耕筰である。「では作詞は？」と問われて即答できる人は意外に少ないのではないかと▼正解は児玉花外。明治7年、京都に生を享けた詩人だ。大正9年に学生主導で校歌作成の機運が高まり、児玉に作詞を依頼したという。その経緯は母校ホームページの「明大校歌誕生の周辺」に詳しい▼ところで児玉の本名は伝八。花外との雅号は「一生を出世栄達」という花の外に在る」との思いからだとか。それを理解して歌えば、一味も二味も違う。

(編集担当・大地進)